

令和 4年度「校庭芝生化地域連携事業」実施報告書

区市町村名 多 摩 市

学校名 多摩市 立 南鶴牧小学校

1 事業目的 協議会名 南鶴牧小グリーンネットワーク委員会

オリンピック・パラリンピック教育レガシーアワード校として、南鶴牧小学校の学校2020レガシーであるボランティアマインドを醸成し、自助・共助の気運を高め、地域の教育力向上を目指すために、校庭芝生の維持管理や地域に愛される芝生化校庭を担う中心としての南鶴牧小グリーンネットワークのさらなる活性化を目指すとともに、子どもが体を動かす喜びを味わえる環境を整備していくことを目指す。

2 主な取組と成果

TOKYO2020レガシーへの取組として、地域・保護者・児童のボランティアマインドを醸成するために、校庭芝生の維持管理作業への協力依頼を本協議会ブログ、南鶴牧小学校の学校ホームページ等で広報をした。地域・保護者と連携した芝生維持管理作業は、4月から11月までに40回も実施でき、延1795名もの地域・保護者・児童・学校職員の参加があった。保護者ボランティアの参加率は昨年度並みを維持でき、児童のボランティアの参加も延871名で保護者・児童のボランティアマインド醸成の機会となった。

芝生校庭の維持管理は、芝生維持管理団体である本協議会(南鶴牧小グリーンネットワーク)のリーダーシップの下、適切な管理を継続することができた。15年目となる芝生校庭をすばらしい状態で管理することができているとともに、本協議会の適切な運営を継続することができた。

今年度は3年ぶりに芝生祭りを実施でき、8月27日と11月19日には芝生開放デーを開催し、多くの児童・地域関係者・保護者の参加があった。

3 取組内容

芝生維持管理作業は3月中旬～12月上旬の毎週土曜日9:00～10:00を基本として実施している。作業内容は、芝生の上の清掃、芝刈りを中心としながら、施肥、雑草抜き、補植、砂入れ、散水、用具の準備・片付・整備、圃場整備、側溝清掃、芝生脇のサクラの剪定など多岐にわたっている。作業のリーダーは本協議会の主要メンバーである地域の野球クラブ・サッカークラブ、おやじの会が1週間ごとに交代して行い、父母と教職員の会の芝生担当世話人と各学級のボランティアが交代で作業を行っている。今年は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を取りながら各学級分担を年間3回をした。各回の時間は1時間。リーダーも作業する方も一部の方の負担が大きくなることを避けながら芝生維持管理作業を続けていくシステムをつくり上げている。手押しの芝刈り機を多くの方で交代しながら作業する方式をとることで、協力する気持ちが高まり、共生・共助社会を形成していくことに一役買っている。(参加者:地域・保護者・児童・学校、延べ1795名)

今年度は3年ぶりに芝生祭り(エコスポ祭り)を9月17日に実施することができた。当日は11団体の協力得て各種体験ブースを設定し、多くの児童の参加があった。実施方法としては、3年ぶりということもあり、学校内でも経験者が減っていること、感染症拡大防止策を検案したことから、前回実施よりも規模や時間等を簡略化し、全体のパッケージを縮小した。参加児童はエコの取組の一環として、空き缶やペットボトルなどと引き換えに参加できることとした。また、8月27日と11月19日に芝生開放デーを実施し、水遊びとドッジビー大会を行った。

児童に向けて「しばちゅん芝生作品大賞」を実施し、昨年度募集した第9回の表彰式を実施した。今年度も2月に第10回目となる作品募集を行う予定である。



芝生管理作業



芝生大賞表彰式



本校ホームページ



本協議会ブログ



定例協議会



芝生管理作業参加児童への表彰



本校ホームページ



本協議会ブログ

4 今後について

- 1 TOKYO2020レガシーとして地域の共生・共助社会に資するコミュニティーの1つとして、本協議会と芝生校庭が持続可能な発展をしていくことができるよう保護者・地域に芝生校庭や芝生維持管理作業のよさについて、本協議会ブログや、学校だより、学校ホームページで広報する。
- 2 芝生応援キャラクター「しばちゅん」を活用しながら、地域の宝として愛着をもってもらえる芝生校庭となるようにしていく。
- 3 校庭芝生化15年目に入り、芝生管理用の機材に老朽化が見られる。徐々に機材を更新していくための資金作りに継続して取り組む。
- 4 「エコスポ」「芝生開放デー」など、地域住民にも広く芝生を開放することで、地域住民からの学校教育への関心と理解を深め、本校が中心となって新たな鶴牧地域コミュニティーの形成を図る。